

第五回中城ふみ子賞 入選作品（抄）

中城ふみ子賞 『同じ白さで雪は降りくる』 中畑 智江

橋はただ橋を続ける 夕ぐれの深度を計る物差しとして

「ハピネス」と名札をつけた鉢のある廊下をベッドが行き来しており
みずからの重さに負けて水滴は窓を伝いぬ 母が気がかり

二月尽。父に借りたる雨傘は莫迦らしいほど真面目に展く

△ほころぶ▽と△ほろろ▽と△ほろろ▽ほんのりと似ており今年の春ほろにがし

次席 『なにもできないばかり、と言って』 今井 心

デコポンを食べることより難しいことはしたくない例えば愛とか

なましろいケーキに金属さしながらひといきついて女子には飽きた

コンタクトレンズを裂いて裂いたままこれはあたしの目だったのになあ

佳作 『レンズ』 大西 久美子

やはらかいレンズがたくさん浮いてゐる空のすみから春がはじまる

少しだけ汗ばんでゐるきみの手が五月の さみどり 釦をはづす

まちがつてこぼした水の潤ひにはじまつてゆく美しい雨

佳作 『分子の集う場所』 江田 つばき

掃除機はほこりを食らう人知れずためた思惑だけを残して

いよかんを達者に食べる妹が父に代わってスーツを着た日

未来への手紙を書いたパン生地のような手のひら持っていますか

候補作 『絶句』 舟橋 剛二

現実を受け入れられず母はまたコップの中に嵐を起こす

候補作 『桜桃の種』 高橋 陽子

転轍機だれかが廻してゐるやうな線路に青き春雷震ふ

候補作 『記憶』 鈴木 恵子

いくつものストップウォッチ可動してこきざみにしぼる教師のわれを